

第24回

大自然に溶け込む めがね橋 その存在は別格

タウシュベツ川橋梁のその姿を初めて写真で見たとき、なんときれいなんだろうと思った。それと同時になぜ？ここに？あるのかとても不思議だった。それはずいぶん前に行ったイタリア・フィレンツェで見た古代ローマの円形劇場やヴェッキオ橋を見たときの感動と、同じくらいの感動だったからだ。アーチ型の建造物として大きさや刻んだ歴史は比べものにならないけれど、大自然に囲まれたその佇まいは負けていない。

また、ここは線路のあった橋であり、土幌線があったということが今では信じられないが、このアーチ型の橋の上をSLが、煙をもくもくたなびかせて走っていく姿を想像すると、とてもワクワクしてしまう。

タウシュベツ川橋梁ができたのは昭和12年だ。タウシュベツの意味は樺の木が多い川というアイヌ語からだ。戦前戦後、豊かな森の木を切り出し、運ぶためにできた土幌線。糠平ダムの開発で昭和30年にはタウシュベツ川橋梁を通るルートが使われなくなり、土幌線は昭和62年に全線廃止になっている。

糠平ダムができて、タウシュベツ川橋梁はダムに沈んだ。しかし、水量が少なくなる冬から春に再び、その姿を現す。2001年には北海道遺産となり「めがね橋」という愛称も付けられた。建造物として観光資源として注目されている昨今、保全運動も勧められているが、厳しい自然とダムに沈むことを繰り返すため、崩壊が危ぶまれているという。今のうちにその姿を何度でも見に行き、しっかり目に焼き付けておきたい。

さて、コロナによっていろんな価値観が変わっていくように思う。どんな世の中であっても、大地の上で心穏やかに、柔軟に描き続けたいと思う。



すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」(アリス館)「おいしい大地、北海道」(イースト・プレス)がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ？ くだもの」(アリス館)がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。



トロッコ
運行も*

Y上士幌鉄道資料館
旧国鉄糠平駅跡地
に建っています。当時、
使用していたものや車輛
なども展示されています。

Yタウシュベツ川橋梁
やその他のアーチ橋を
見に行くなら、ツアーも
あります。
・みかし大雪自然ガイド
センターやみかし大雪
自然館へ！オヌヌです。



Yぬかびら
温泉郷
いろんな宿の中
で「中村屋」の
朝食は特筆もの！
また、部屋も37℃風呂
も手造りなんですよ！

糠平湖周辺には
一年を通して楽し
める自然や温泉が
いっぱい！



たのしみ
ね！！